

理屈はともかく、書道は楽しい！皆さんもどうですか・・・

《書道を習い始めた動機》

リタイア後は、フィットネスクラブ通い、ゴルフ、ハウスマンテナンスなどで健康維持・強化を計り、趣味、読書、パソコン、DSなどで頭を使ってボケを防止している。その一環として5年前から書道教室に通っている。元々学生時代から漢字の世界に興味を持っていたが、現役時代は忙しさにかまけてほとんど筆を持ったことはなかった。リタイアして余裕ができたので、待望の書道入門を果たした。文字通りの「六十の手習い」である。筆で一定の紙面に字を書くだけではあるが、これで集中力、美的感覚を養い脳の老化を防ぐと共に古今の名筆、漢詩に触れる機会を得るといっておまけがついてくる奥行き深い世界である。



飯田吉辰

- ・昭和15年1月東京生まれ
- ・昭和37年損害保険会社に入社。
- ・平成15年第二の会社を辞して完全リタイアし、趣味と健康維持に専念中。
- ・3年前に先輩から勧められて日本退職者協会に入会し、神奈川会ワーキンググループに所属して、現在に至る。

《写真の作品の大意》

(平成20年8月上野の森美術館での書道展出品)

紀元前200年の昔、夏の国の「禹」という王様の廟(建物様の墓)が寂しい山陰にひっそりと建っている。

秋風が吹き夕日が斜めに射している。荒れ果てた庭には橘や柚子の枝が垂れ下がり、古い廟の壁には王の象徴である龍が刻まれているが、辺りには霧がたちこめている荒涼とした風情である。

その頃の川は轟音を立てて白砂の上を流れていたが、王は四種類の乗り物を駆使して治水工事を行い、三つの支配地を安定させたという史実が知られている。

(杜甫の五言律詩より)

